

42歳

天使のたまご代表 藤原亜季

不妊治療を経て15年ぶりに妊娠！

来年2月に第二子を出産予定！



妊婦の視点で、自らプロデュースしたマタニティケアの重要性を改めて確信

母になる女性のための鍼灸アロママッサージサロン『天使のたまご』（東京都中央区銀座1-4-4 銀座105ビル5階）は、代表藤原の妊娠・出産を機に2006年創業。環境の変化とともに大きく揺れ動く妊娠中～産後のメンタリティが、出産はもちろん、母児の愛着形成やその後の育児にまで及ぼす悪影響を危惧し、大学医学部での研究や医療機関とも連携を図り、メンタリティの改善を重視したボディケアを提供。現在、国内外に8店舗を運営、来院者には著名人も多く、年間のべ8,400名を超える妊産婦が通う実績を誇るサロンです。

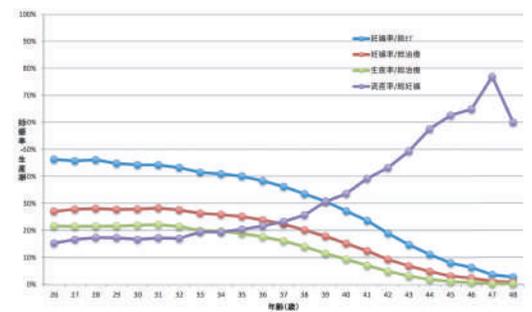
想像以上にハードルの高い「40代の妊娠」

40代になると妊娠率はグッと下がる一方、流産率は高くなる（表1）
ということは、妊産婦ケアの専門家として頭ではわかっていましたが、40代という年齢の壁を、身をもって痛感しました。

流産、子宮外妊娠、卵管切除手術...

40歳をすぎて自然妊娠で授かるも、心拍確認後に流産。身体だけでなく精神的な苦痛も大きく、年齢を考慮して体外受精へステップアップ。いざ始めた治療も思うようにうまく進まず、通院は長期に渡り、気持ちは落ち込み、ストレスも影響したのか全身にひどい湿疹も出てしまいました。

ART妊娠率・生産率・流産率 2017



(表1)

最後の移植は体調を万全に整え、タイミング法と体外受精にトライ

自らプロデュースした鍼灸アロママッサージ施術で自律神経系を整え、骨盤内の血流を改善。手前味噌ですが、本気で「天使のたまご」ナシでは先の見えないつらい妊活を続けることはできなかったと思っています。



昨今の晩婚化や挙児を希望する女性の高齢化など、加齢を原因とする卵巣機能低下等による不妊患者が増加しています。

現在は、助成金の制限撤廃や不妊治療の保険適用への動きなども取り沙汰されておりますが、治療を受けるためには経済的な問題以外にも様々な困難があり、心理的にも疲弊している患者が多いのが現状です。

2020年大分大学医学部安藤らの研究によると、不妊治療を受けている女性の91.9%が何らかのストレスを感じており、そういった女性への細やかな心理的・社会的支援が重要だと報告しています。

私ども天使のたまごは、「新しい命を育む女性をいたわり、100年先の未来へ愛をつなげる。」を企業理念とし、女性の一生でもっとも大きな出来事の一つである妊娠・出産に関わる不安や期待に寄り添えるサロンとして、SOSの出しやすい社会を目指してマタニティケアに取り組んでおります。

女性の幸せの在り方が多様化する現代社会にあった弊社のサポートを多くの方に認知していただくことが、日本が抱える少子化問題や、産後うつ予防など早期育児支援にもつながると考え、藤原の体験を含めて妊娠・出産・育児に関わる正しい知識や情報をお伝えしたいと思っております。ご希望がございましたら、サロンでの施術体験なども随時受け付けております。



天使のたまご

母になる女性のための鍼灸アロママッサージサロン

【取材に関するお問い合わせ】株式会社天使のたまご 広報：武田
電話 / 03-3563-1045 Mail/ takeda@tenshinotamago.com